

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703451		
法人名	株式会社 エルゼ		
事業所名	愛好の里 グループホーム 青春・明苑		
所在地	北九州市八幡西区馬場山東1-26-20		
自己評価作成日	平成28年11月8日	評価結果確定日	平成28年12月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成28年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者と職員が寄り添い、第2の家で家庭的な雰囲気を最期まで穏やかに過ごしてもらえるように支援しています。今まで5名の入居者の方を看取りました。ご家族が苑で過ごせた思い出を残してあげたい、そして家族のように思っていた職員に最後まで看取って欲しいとホームで生活した自室で通夜、葬儀を行った方もおられます。家族の一員をなくした寂しさはありましたが、最期まで手を尽くし、ホームを最後に送り出すことが出来ました。そして以前看取った入居者さんの子供さんが現在当苑にて生活されています。ご家族が是非当苑に入居させたいと希望してくださり入居となりました。病院から精神科への転院を進められた方が当苑に入居後、皮膚状態、精神状態も改善され現在はご自宅へ戻って生活しておられます。家族の一員として、お一人おひとりに愛情をもって誠心誠意援助させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居室やリビングに理念が掲示され、職員は食事、入浴、排泄、レクリエーション、体操などの関わりを通じて、1日に何度と無く理念を実感している。入居直後の3日間は職員3人体制で24時間見守り、その方の心身状況を把握したり、孫の結婚式や妻の葬儀への出席の希望を叶えたいと、忙しい家族に代わり準備や送り迎えを支援している。今までに5名の方の看取りに関わっているが、夜間専門の職員が看取りの場面に遭遇し、常勤として入職するなど、今後も医師や看護師との連携で、寄りそう介護を目指している。町内の方々との交流や盆踊り、祭りへの誘いを受けながら、広い掃出し窓や外のウッドデッキから季節毎に表情を変える池が見渡せるリビングのソファで、入居者が寛げるゆったりとした時間が継続できるように、地域密着型サービスとして理念の展開が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **愛好の里 グループホーム 青春・明苑**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛情をもって明るく楽しくともに笑える毎日を過ごします」という理念を掲げ、家庭的な雰囲気な中でともに笑顔で過ごすことが出来るよう努めている。	理念が居室とリビングに掲示され、職員は食事、入浴、排泄、レクリエーション、体操などの関わりを通じて、1日に何度も無く理念を実感している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事には招待状を届けて頂けるので、可能であれば参加させて頂くようにしている。	町内会に加入し、順番で組長を引き受けて以来顔なじみとなった近所の方からパンの差し入れがあったり、何か手伝える事はないかと声をかけられたり、犬の散歩に寄られたりと日常的な交流がある。又、神社のお神輿も巡行し、祭りや盆踊りへのお誘いに2,3名の入居者と参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時には、民生委員の方に出席して頂き、ホームでの生活の様子を見て頂くと共に、近況の報告、支援内容についての説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を行い、包括支援センター、民生委員や入居者ご家族に苑での出来事・取組みについての報告を行っている。また、参加者の方々より、意見を出して頂く事で、サービスの向上につながることが出来ている。	運営推進会議は、ご家族や町内会長を兼務されている民生委員の参加で、定期的で開催されている。日頃の様子や困っていること、ヒヤリハットなどを議題に話し合い、議事録は全家族に送付している。他の家族が参加しやすいように、会議の時間帯の変更も検討している。	地域包括支援センターに会議の案内を継続し、町内会など参加者の拡大を図り、より活発な運営推進会議の展開を期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的開催される会議の中で円の実情を伝え、悩み事も含め、包括支援センター、民生委員の方等に相談、意見を伺いながらサービスに活かすと共に、時として協力をお願いをしながら、より良いサービスができる様にしている。	運営推進会議以外でも、困ったことが起きれば地域包括支援センターや民生委員に相談している。地域包括支援センターにオムツ給付について相談し、解決した事もあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の状況や1日の生活リズムを把握し、帰宅願望のある入居者には本人の気持ちになり、納得させる工夫をし、スキンシップをとるように努めている。	全職員で、声のトーンや「ちょっと待って」の言葉使いも気を配っている。入居直後の3日間は職員3人体制で24時間見守り、その方の心身状況を把握している。外出傾向のある入居者は、ご家族の了解を得て町内に写真入りの回覧板を廻し、理解と協力をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育体制を充実させ身体的・心理的虐待の防止を徹底する。家族との情報共有の場をもうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深めるようにしている。現在、制度を利用している方はおられないが、利用者家族等に情報提供をするようにしている。	以前制度を活用されていた入居者を看取りまで関わった経験が、制度の理解を深めているが、年に1回全員で勉強会を開き、毎年違った角度で学習している。入居時に、全家族へ事業や制度の説明を行っている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には十分な説明を行うとともに疑問点や不安点がないかについても確認を行っている。理解・納得を頂いたうえで契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には意見や苦情が出やすいように玄関にご意見箱を設置し、入居者には言葉や態度からその気持ちを職員が察するように努力し、スタッフのミーティングに速やかな対応を行うようにしている。	意見箱は活用がないため、家族の来訪時は必ず管理者から声をかけて、入居者の日常を伝えながら話を伺うようにしている。入居者の言動については、対応を急ぐこととそうでないことを分けてミーティングで話し合っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るように心がけ職員の意見や要望を聞き入れるようにしている。	ミーティングだけでなく日頃から、職員が意見を言える環境づくりをしている。起き上がりができなくなった入居者の対応を話し合い、機能を備えた数台の新しいベットが購入されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営形態(労務・給与・福利厚生)は(株)エルゼに管理されているが職員の意見など働きやすいように改善を図る様になっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	苑では性別・経験・年齢等は制限せず採用している。また未経験者であっても不安無く働けるよう研修から行っている。個人の希望休日の調整や急な勤務交代についても柔軟に対応している。	職員のロコミによる入職が多く、苑の理念を理解して頂ける方であれば、資格の有無や性別、年齢を問わず採用している。夜間専門で勤務していた方が、看取りの場面に遭遇して是非働きたいと常勤として入職している。研修日は希望を出せば優先に休暇がとれるように配慮され、資格取得を目指す職員もいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員参加のミーティング時に人権についてのテーマを掲げ、教育を行っている。	年に1回は人権研修に取り組み、外部研修の伝達講習など全職員に研修の機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1度のミーティングは全員参加し、社内研修を行っている。終末期の対応時には看護師による研修を行った。知識や技術の向上を随時図っている。未経験者には管理者自ら現場に出て、指導を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のケアプランセンターと連携し交流を深めつつある。包括支援センターの主催の地区の交流会に出席している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時には、面談を行いご本人、ご家族の不安や要望等を伺っている。ご本人の不安については少しでも和らげる事が出来る様コミュニケーションを取りながら安心の確保に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時の面談にてしっかりと不安等を尋ね、例えばどのような方向で対応していくか、少しでも良い方向で生活して頂けるようご本人様に合わせた対応を行っていく旨お伝えし、随時報告を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズに合わせ、他のサービスが適切と思われる場合には、必要としている支援を見極め、御本人や家族の意向を確認した上で紹介する等の対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として礼節を持ち、個人史や生活歴を理解した上で対応するように心がけている。個々が今出来る事を大切に、共に暮らす家族の一員としてお互いが支え合う関係を築ける支援に努めている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況等を随時ご家族へ報告し、ご家族の思いを聞きながら支援の方向性の決定に活かしている。その事によりご家族も共に支援にかかわっているという形が作れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部の方の面会や外出、外泊にも制限を設けず、ご本人の大切な関係を継続できるようにしている。	バスを使って訪ねて来られる友人と二人の時間を作ったり、姪が尋ねて来てもその事をすぐに忘れる入居者もあるが、関係の継続を支援している。孫の結婚式や妻の葬儀への出席の希望を叶えたいと、忙しい家族に代わり準備や送り迎えを支援して喜ばれている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフと一緒にコミュニケーションをとったり、レクレーションや学習を取り入れて孤立することのないように入居者一人一人に合った支援、できる事をお手伝いして頂き見守りを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、次の世代まで利用できるように関係を深めている。今年7月には2世代にて契約して頂き当苑にて過ごされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談・普段の会話の中から、希望等を聞き、その思いを尊重し、少しでもそれに沿う事ができるように努めている。また、日常生活の変化などの中からご本人の思いを汲み取り援助に繋げられるように心がけている。	一度で情報収集しようとするとう入居者が疲れてしまうので入居時は短い時間で、その後は生活のなかで職員全員で情報を共有しながら入居者の思いの把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の思いを尊重し、少しでも希望に沿うよう支援をさせていただき、本人の意向を第一に考え、その人らしい暮らしが出来るように努める。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人に合った生活スタイル、1日の過ごし方を常に観察してスタッフ同士で情報を共有して支援に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度会議を設け、今の入居者の状況、問題点、今後の対応をスタッフで話し合い計画を作成しています。	介護計画作成担当者が計画を作成しているが、定期的なミーティング、担当者会議、不定期の話し合いなどで全職員で情報を収集し、個別性のあるケア内容を話し合っている。介護計画の要約が、入居者毎の日誌の上部に記載され、職員たちは日々確認しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき等はその都度スタッフ間で共有出来るよう申し送りをし、必要と思われる点についてはプランの見直し時に活かすようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や要望に応じて、受診、送迎や個人希望の買い物等必要な支援は行っている。今回は孫の結婚式の送迎も行った。行動に制限される事の無いよう柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎の地域の行事には招待状を頂き、出来るだけ参加するように努めている。また、ボランティアの方に音楽を演奏して頂いたり、馴染みの唄のCDを作ったものを分けて頂いたり、歌の好きな入居者が多いので、楽しめる機会を作っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については入居時にかかりつけ医の選択をして頂いている。現在は全員が苑のかかりつけ医より月2回の往診を受けている。その他状態に変化が見られた際には随時相談し、支持を受けている。医師の指示により別の専門科受診が必要な際はスタッフ同行にて受診を行っている	家族や本人の希望に沿った適切な医療が受けられるよう医療機関との調整を図り、訪問看護の活用も有効に連携したいと管理者たちは話している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご家族へ週に一度看護師が勤務、バイタル等体調確認を行っている。1週間の状態、気づきなどを伝え、相談を行う。体調不良の入居者は、随時看護師、かかりつけ医へ連絡を密に行い、適切な受診や看護、服薬を出来るよう対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、入院中には出来るだけ様子を見に伺い、医師・看護師よりの情報を得るようにしている。具体的な退院後の生活について、相談・検討を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に苑としての考え方、今までの看取りの事例についてご家族に説明を行っている。また、体調が悪化時には、看護師も交えて再度今後の方針についてご家族の要望を改めて伺ったうえで、支援を行っている。家族の希望により看取りから葬儀までを苑にて行い、送り出した方もおられる。	今までに5名の方の看取りをされている。初めての看取りの前に他の施設の方や看護師などを招いて、急変時の対応や死を迎えるにあたっての心構えなど学んでいる。医師や看護師との連携のなかで、寄りそう介護を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の特徴や心身の状況を把握し常に注意を払い急変時の対応方法について学んでいる。	/	
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防関係者を交えた避難訓練の他、全職員で定期的に避難訓練を実施し災害時に対応できるように備えている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言動には十分注意するように皆で徹底している。個人情報施設外には持ち出させていない。	入居者によっては、呼び名をさん付けで呼ばない方がよい場合は、家族に相談したうえで決めている。職員は言葉使いで迷ったら管理者に相談している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意見を尊重し、自分で決めて頂けるよう支援している。	/	
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせて「急がない、慌てない」を心がけ支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際には本人の希望を確認し季節、天候に合わせて支援している	/	
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事は積極的に参加してもらいテーブル拭きやセッティング等出来る範囲内で一緒にお手伝いをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を取り入れながらバランスを考え職員が献立を立てている。1人ひとりの状態を見ながら、食材と食事形態の工夫をしている。水分摂取量は1日1500ccを目安にしており、記録し摂取量が少ない方には声掛けや時間をおいた摂取を試みている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い本人の力に応じて確認、援助・アドバイスを職員が行っている。また、舌の汚れにも気を付けており、舌ブラシにてケアを行っている。義歯の方は就寝前、洗浄剤にて漬け置き洗浄をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄パターンや便薬の服用状況を把握、状況と状態に応じたこまめなトイレへの声掛け、おむつ交換を行い衛生維持に努めている。	排便は毎日その方に応じて確認しているが、排尿は本人からの言葉や排尿時間、匂いなどでトイレ誘導を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の中に根菜類や、煮類、海藻類をバランスよく多く取り入れられ飲食物は工夫されている。牛乳は毎日飲んで頂き、毎朝ラジオ体操を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大きなガラス張りでもとも眺めが良く、温泉気分で楽しみながら入浴されている。希望があれば1人だけ、気の合う方向士でも入浴可能。	浴室から大きな池を望め、2方がガラス張りの明るく広い浴室の中央には3方から介助できる浴槽が設置されている。二人体制で入浴を介助する入居者もあるが、お風呂好きな入居者は毎日入浴することもある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴を活かした部屋作りを心がけている。安心して休息出来るようにソファで休息して頂いたり安心して気持ちよく就寝して頂く為1人ひとり工夫して転落防止に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さんが服用される薬には毎日日付を記入してあり、服薬忘れがないようになっている。また状態が急変した場合にはかかりつけ医の指示を受け服薬を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常時何かしらの音楽が流れ、歌を歌ったり1人ひとりに応じた力を活かしてぬり絵、パズル、習字等を楽しまれている。晴れた日にはドライブに出かけ季節の草花を摘んで気分転換等の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方は少ないが気候の良い時などは近くの公園に散歩に出かけたり車でドライブなど、外出の機会を持つようになっている。希望があれば入居者の買い物と一緒に出掛ける。	入居者の希望があれば、一緒に近所の店舗に買い物に出掛けている。天気の良い日は希望を募ってドライブに出かけたりするが、車酔いを心配される入居者もあり、車椅子で近くの公園で花見や散歩をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる方は所持して頂いているが、そうでない方や家族に希望がある方は管理者が管理を行っている。少額の小額を財布に入れて所持していることで安心される方もいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙について、入居者の要望があれば対応している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑内の温度管理は細かく行いリビング、浴室共にとっても広々としていて開放感があり大きな窓からは暖かい光が十分に入り季節の移り変わる様子を満喫しながら快適に生活できる様にしている。	広い掃出し窓から池が見渡せ、外のウッドデッキには洗濯物がひらめき、廊下の天窗から陽光が降り注ぎ、清掃の行き届いたリビングのソファで寛ぐ入居者の姿から、ゆったりとした時間の流れが感じられる。ソファに置かれた乳児と小児の人影が微笑ましい光景となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中居室にて過ごされる方は部屋の温度管理を十分に行い、また苑内の和室、ソファやダイニングテーブルを好きな時自由に利用できるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の生活習慣に合わせてベッドや畳などの部屋作りを行い、好きな花を飾ったり、仏壇やご家族の写真を置き居心地の良い部屋になっている	入居者の使い勝手が良いようにベッドや布団、クローゼットやタンスなどが置かれ、個性的な居室づくりとなっている。職員が付きそって、亡き夫へ毎日お水を上げられる入居者もある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分な採光、バリアフリー、手すり設置の他行動範囲内の障害物を排除し、一人でも安全に移動が出来る様、またお一人の利用者さんにはお手洗いの入り口に「お便所」と書き添えて利用して頂きやすいような工夫と環境づくりに努めている。		